

# 第 14 回厚別区防犯ネットワーク会議 会議録

## 1 日時・会場

平成30年7月12日（木） 10:00～11:30  
厚別区役所2階 会議室C

## 2 出席者（敬称略）

千葉 智明（小学校長会厚別支部）  
佐藤 圭介（厚別区PTA連合会）  
藤島 敬久（厚別南まちづくり会議）  
横山 正則（厚別西地区まちづくり会議）  
橋本 泰夫（もみじ台まちづくり会議）  
栗原 佐外夫（厚別東地区まちづくり会議）  
野川 純子（厚別区青少年育成委員会連絡協議会）  
山本 康次（札幌市厚別区保護司会）  
大川 博（厚別区中学校長会）  
神 昭一（厚別警察署少年補導員連絡協議会）  
河西 敬志（北海道コカ・コーラボトリング(株)）  
山田 直樹（厚別東児童会館）  
阿部 武仁 厚別区市民部長  
松野 彰 厚別区市民部総務企画課長  
櫛引 重一 厚別区市民部総務企画課地域安全担当係長  
柴田 肇 厚別区市民部総務企画課地域安全担当係

## 3 会議内容

【平成30年度厚別区防犯教室開催結果について】

- 平成30年度厚別区防犯教室開催結果について説明します。資料2をご覧ください。  
表面に実施報告の内容、裏面に当日の実施場面の写真が写っています。

まず、防犯教室は、当防犯ネットワークが主催し、区内の小学校を対象にクイズと実演などを通して、子どもが身を守るコツ、助けを呼ぶコツ、逃げるコツなど自分を守るための知識を学び、実際に不審者に遭遇したときに役立つ行動力を身につける授業として平成28年度から開催しております。

平成28年度につきましては3校、昨年度は4校で開催しておりますが、今年度はもみじの丘小学校1校での開催となっております。これまでと同様、武田信彦氏がうさぎ

ママのパトロール教室の講師を務め、非常に好評でした。また、地域で日ごろ見守りをしてくださっている住民5名ほどが見学になり、児童との顔合わせも行っております。

なお、参加者数は、今年度実施分が278名、合わせて3年間で約2,800名となっております。

開催初年度の平成28年度の当ネットワークの結論として、今後も毎年2校から4校程度で開催して、4～5年で区内の全小学校で開催するということでしたが、特段の都合がなければ、来年度も現行の方式で継続していきたいと考えております。

今現在の実施済み校は、8校となっております。

なお、開催時期は、小学校の都合上、今年と同じく6月から7月ごろを考えております。

事前調査のため、4月早々には開催内容を決定する必要がありますので、12月頃に開催を予定している今年度2回目となる次の会議で方向性について結論を出し、その後、千葉代表と事務局で調整の上、開催に向けた具体的な準備を進めてまいりたいと考えております。

この事業は、学校とPTA、地域と関係団体が一緒に取り組むせっかくの機会となっております。次年度は複数の小学校で実施できるよう、事前の準備について今後検討を進めたいと考えております。

#### 【意見交換】

- 各団体から、事件等発生時の連絡体制について意見交換していきたいと思っております。

先月も、厚別区で塾帰りの小学生が男に殴られる事案が発生しております。また、翌日には、近隣の小学校の登下校にたくさんのスクールガード、地域住民の皆様が見守り活動を行っていただきました。事件の情報が素早く伝わったのも、こういった対策がとられることにつながったと思っております。

子どもが不審者などの事件に巻き込まれないようにするために行うべきことなどについてご意見を出していただければと思っております。

- 少年補導員の平成29年度の活動については、計画どおりに実施しております。

今年度の活動内容については、厚別区の少年補導員73名、6カ所の交番に10名から15名配置、北星学園大学に4名の少年補導員が配置されています。今年度も、交番単位の支部が実行主体で地域の街頭補導活動、有害環境浄化活動など、少年非行の防止活動を行っております。北星学園大学については、今年から非行少年の立ち直り支援等の活動を要請しています。

本部の活動としては、各種の健全育成、非行防止大会など、約20の行事を予定しております。これについては、各支部から参加していただけるよう、きょうの夕方の役員会で要請することになっています。今年度も、厚別警察署少年サポートセンターと連携して、非行少年に対し、農業体験、環境美化、スポーツ教室などの事業を通して規範意識の醸成、非行、立ち直り支援を図ってまいりたいと思っております。

それから、5月22日に新さっぽろのホクノービルの前で塾帰りの小学生2人が暴力

を受けたという連絡がまちづくりセンターからあって、私は23日、24日と車でパトロールしました。

感じたことは、事件の翌日には地域の人や学校の先生がかなり出ていて、これが毎日だったら安全だなということです。24日も回りましたが、そのときは逮捕されていましたので、がらっと変わって数名しか立っていませんでした。普段から見守りしてもらわなければならないということで、子どもを見守る会等の会議や学校のPTA、自治連合会に対して引き続き協力要請を継続していきたいと思っています。

○ 私は、厚別ひまわり町内会の副会長をやっている栗原です。防犯部を担当しております。

うちの町内会は1,020世帯あって、近くに小野幌小学校があるため、十数年前から小学校1年生の下校時のパトロールをやっています。町内会としては毎週火曜日、老人クラブは毎週金曜日、夏休み、冬休み期間を抜かしてずっとやっていますが、この活動は継続していきたいと思います。

それから、小野幌小学校が開校120周年ということで、明日祝賀式があります。生徒数は約580人で、ここ2、3年変わっていません。

町内会と小学生の協働の内容ですが、夏休み期間中、朝6時半から近くの公園でラジオ体操をしており、約120名の町内会の皆さんと小学生に参加してもらっています。

それから、毎年8月の初めに町内会主催の夏祭りをやっております。これにも小学生に来てもらって、盆踊りや太鼓の演奏をもらっています。参加者は、町内会と子ども会を含めて、いつも400~500名でやっています。

厚別中学校とは、毎年6月初め、花いっぱい運動として、国道12号線の街路ますに花を植えています。

その他、生徒と厚別東町内会連合会の役員が一緒になって非常時の防災訓練をやっています。

もう一つは、厚別中学校のグラウンドには非常時にヘリコプターが着陸することになっていますので、毎年冬に、生徒と町内会連合会が一体となって、ヘリコプターが降りられるように雪踏みをやっています。

○ 夏休みが始まりますから、児童と近所の住民が共同でラジオ体操をやる予定です。ただ、私どもの町内は市の調査によると、70歳以上の世帯が66%を占めていて、60代が18%と札幌の中でも少子高齢化が一番進む地域で、全国的にもかなり上位なので、お子さんよりも高齢者主体で物事が進んでいます。

どうしたら高齢化をとめながら若い人に魅力あるまちづくりをしていけるか、自治会で模索しております。防災訓練に関しても、若い人が少なく、高齢の方が多いため、参加者が少ないです。昨年度から、主に地震を想定し、緊急避難時に町内で車椅子の方や高齢者をどのように2カ所の避難場所まで誘導するかを検討しております。

救護活動などは、高齢者も多いし、私どももそこまでのことはできないので、市や行政と相談しますが、住民の把握は町内会が一番よく知っているため、速やかに行政に伝えなければいけないと考えております。ただ、個人情報観点もありますので、誰が車

椅子だ、誰が動けないということも把握しきれないので、難しい問題だと思います。

とにかく、一歩ずつでも前に進めて、いつ起こるかわからないことに備える必要があるという話が前年度あたりから出て、今は組織づくりやアンケート調査などの活動をしています。

- 私の町内会は、現在2,700戸を有しており、去年からことしにかけてあと20~30は増えて、3,000戸近い規模になることが想定されます。私どもは、月2回、15名のボランティアと5台の青パトで定例的に見守りやパトロールを実施しています。

昨年、幼児の傷害事件あるいは声かけ事案、コンビニ強盗が起きて、その都度、警察から学校に連絡が入り、学校から要請を受けております。こういうこともあり、定期的なパトロールのほかに、今月から不定期のパトロールを2人体制で実施しております。

今年6月のスクールゾーン実行委員会の中で、ある地区が寂しくて心配だということを書いておりました。これは、ある区域に3,000戸の中の8割近くが集中していて、残り2割の地区では、朝方は通勤者がいるので安心して登校できますが、帰りの時間帯は人がいないので心配だという声でした。この地区に関しては、どのようなパトロールがいいのかを検討中です。

それから、防犯とは関係ありませんが、安全の意味から、今年地震によるブロック塀の崩壊で児童が犠牲になっております。このことを受けて、我々も、スクールゾーンにおいて青パトを動員して危険箇所がないかを調査した結果、スクールゾーンには存在しなかったということで、今後とも安全・安心の活動を続けていきたいと思っております。

- 厚別南町内会連合会の中には、32の町内会が入っています。各町内会で、小学生・中学生の登下校時にパトロールを実施しておりますが、そのほかにも定期的に町内会の防犯担当がパトロールしているため、今のところは大きな問題はありません。ただ、前に、誰が報告したのかわかりませんが、第6町内会の公園で夜中に悲鳴が聞こえたということです。夜中ですから誰も聞こえなかったのですが、別に問題はなかったということです。

それから、中学生が横断歩道で不審者に声をかけられたということですが、それについても別に問題なく、今のところ大きな問題はありますが、小・中学生の登下校時には各担当が自分の町内のパトロールを実施し、事故のないように頑張ってもらっています。

- 町内会の皆様のお話を聞いて、学校が日ごろ感じていることと同じ意識でやってくださっていることに改めて感謝の気持ちを持ちました。

私が特に大事だと思っているのは、地域の方と子どもたちが顔見知りになることです。ラジオ体操をしたり、ふだん立っていただけのことで、地域の方に守られている意識が子どもたちの中にも生まれます。ただ、それと同時に、逆に、こちらが声をかけると、おじいちゃんに声をかけられたなど、不審者として学校に報告が入ってしまうことがあります。実際に行ってみたら、地域に住んでいるおじいちゃんが子どもたちの様子が心配だったので大丈夫かいといって体を触ったとか、そういう話なのですが、不審者情

報となって学校に伝わってしまいます。顔見知りではない方が子どもたちを思っている、今のご時世ですので、不審者に対しては、非常に過敏になっています。それが非常に残念なところですが、顔見知りの関係性ができていれば、安心につながると思います。

本校には厚別西厚信会やクアタウンなどの町内会があり、保護者も地域の方ですが、実際は関係性が希薄になっていると感じます。本校のPTAと町内会は、年に6回ほど、一緒にパトロールをしてまちの安全を確かめております。

中学校ではどんな感じですか。

- 中学校長会は全体にあって、さらに区ごとにありますが、防犯関係でいえば、毎月、不審者、変質者の情報を各中学校からいただいて、それを全支部にも提供し、それを委員会や道警に提出しながらパトロール要請をいただいています。特に、中学校では、ことし6月17日から7月16日の中体連の時期のおよそ1カ月間、学校祭の期間の9月から10月に不審者、変質者の報告が多くあります。中学生の下校時刻の7時近くには、薄暗くなり、わかりにくい状態になってきて、被害に遭うケースが多いです。ただ、昨年度は、朝の登校時に不審者が出ております。こういう情報につきましても、地域住民から提供いただくこともありますが、ほくとくんメールで入ったもの、各中学校の生徒から申し出があったもの、緊急性があり、市教委から直接来るもの、これらの区内の中学校及び関係校区内の小学校へ情報を発信しながら安全を呼びかける活動を行っています。

ちなみに、昨年1年間の中学校校長会で把握している変質者、不審者の件数は、厚別区では27件です。そのうち24件は、警察署に通報しています。

内訳としては、露出が13件で一番多く、次いで多いのが声かけ、つきまといが9件、中には、触る、たたく、盗撮が2件あります。そのうち、盗撮については、厚別警察署のご尽力で犯人を検挙するに至っています。また、たたく、触るについては、昨年度、職員を動員して、登下校時の安全確保としてパトロールを行っていただいた中学校もあります。

今年度につきましても、4月、5月は2件の発生です。本来、中体連が海の日までに終わりますが、そのあたりでどれくらい出てくるのか、また、中体連の期間の遅い時間にかけて、警察署にパトロールを依頼し、行っていただいています。

また、近所の住民からの通報や声かけにより、かなり見守られている現状もありますので、この場をかりて感謝いたします。ありがとうございます。

- 中学校は、PTAの見守りは少ないと思いますが、小学校は、輪番制で登下校中の交差点などに人員を配置し、町内会と一緒にチームを組んで取り組んでいる学校が多いと思います。

私は厚別中学校の会長を務めていますが、青少年健全育成推進委員会の中で、地域の方々全員で子どもたちに声をかけると、不審者だと思われてしまわないかという不安があったり、実際に不審者だと思われてしまったようで、子どもたちが逃げたしまったという話も出ていますので、顔の見える関係を築けるよう、PTAの行事の参加を推進できたらと思っています。

○ うちの地域では、ミステリーバスツアーというものがあり、育成委員会のほかに町内会の方や子ども会の協力を得て実施しており、なるべく子どもと顔の見える関係性を重視しているところが多いと思います。

また、札幌市全体の取り組みになっていますが、地域にある商店を回って、厚別区内にもステッカーを張らせていただいています。大きな商店から個人商店まで、西友は全部の入り口に張ってあって、子どもたちを見守る店ということで協力していただいて、毎回、育成委員会が巡回して子どもたちの様子やお店の様子を聞いています。

地域のラーメン屋なんかに行くと、踏切は危ないからと言って見守ってくれたり、最近の子どもは変なことをしないとという話を聞いています。

顔見知りになる関係ということで、西町内全体では、ジャケットやジャンパーや帽子までそろえて、町内の人で活動するときはわかりやすくPRして活動をするようにして、それ以外も行事のときには身につけています。

連絡体制については、まちづくりセンターを基点にして、何かあったらまちづくりセンターという形でご協力いただいています。

○ 7月から第68回社会を明るくする運動月間をやっていますが、全国的に展開している事業です。今回、学校と地域の連絡ということで、平成元年から厚別保護司会が発足して以来、学校校長会と保護司会は、年に1回、情報交換をやっています。その中で、特に小学校の校長先生と、今の時点での学校内での問題点をどうするかを話し合っています。

それから、保護司会の各担当が取り扱っている事例について、お互いに情報交換をしています。保護司会では、各小学校・中学校に対し、7月に作文コンクールをお願いしています。また、サポートセンターが平成25年に発足して、地域の皆様方の防犯の相談などに乗って、徐々に浸透してきている状況です。

それから、今年、区民センターが改修することによってずれますが、10月ぐらいに公開セミナーが開催されます。これは、先生方やPTAの方とともに、防犯に関する問題点などを共有しながら、お互いに意見を交換するものです。

また、今回、大谷地東小学校で不審者の事例が結構ありましたので、大谷地東ばかりではありませんが、声かけを強化していきたいと考えております。

先日も、子どもが男性に声をかけられる事案がありました。最終的には捕まったため、一件落着ということで安心しています。

各地域では、ハザードマップやDIGなどの取り組みをしておりますが、防犯ネットワークの中で、保護司だけでということではなく、何が一番ベターかを共有していきたいと考えています。

これからも、皆さんといろいろなことを共有していきたいと思いますので、ひとつよろしくをお願いします。

○ 私は、小さいときからずっと厚別に住んでいます。私が小学生のころから見て変わったと思うのは、人が外にいなくなったことです。小学校の行き帰りは、昔は今よりもっと畑があって、畑仕事をしているおじいちゃん、おばあちゃんがそこらじゅうにいまし

た。家の前でひなたぼっこをしているおじいちゃん、おばあちゃんがいっぱいいました。僕らが歩いていると、話しかけたり話しかけられたりという関係ではなかったかもしれませんが、少なくとも周りに人の目があったと思います。

できるかどうかでいうと難しいと思いますが、ここに集まっている皆さんは、少なくともそういう意識を持たれている方たちです。さらに、周りには同じような気持ちを持っている方がいっぱいいらっしゃるはずで、僕も勤め人で、普段はなかなか家にいることができませんが、家の中でごろごろしているぐらいなら、極力、外でひなたぼっこしようかなど、そんなことが一つあると思います。

私が小さいころから変質者はいて、今より多かったと記憶しています。先ほど報告がありました、子どもたちがたくましさをも身につけるのも大事なのではないかと考えています。

話はずれですが、僕には小学生の子どもと高校生の子がいて、上の子が小学校のときからどうなんだろうと思うことはありましたが、どこの親御さんも子どもを大事にするのです。僕もしているかもしれませんが、大事にし過ぎると、子どもたちが自分たちで何かを考えると、自分たちの身を守る所に行き着かなくなります。正直、少し危ない目に遭わないとわからないことがあると思います。人との関係ではなくても、川遊びして初めて川って危ないんだなと思ったり、危ないことをさせようというつもりはありませんが、育てる側の親の感覚みたいな話ができればと思います。

もう一つは、交通事故や安心・安全の観点で、自然災害も含めて、我々周りの大人が子どもたちやお年寄りも含めてどう一緒に暮らしていけるかです。厚別区民として私も頑張りたいと思いますので、それぞれの会の中で、少しでも外に顔を出すと、そんなところをご協力いただけたら幸せだと思えます。

○ 先日、学校に不審者情報が入ったときに、近くの公園だったので見に行くと、窓から見ていた方が出てきて話しかけてくださいました。実は見ていないようで見ていたりしますが、本当に無関心な社会というのは私たちも感じています。罪を犯す人たちも、実は子ども時代があったわけで、学校がかかわっているのにそういう子が出てしまう現実非常に責務を感じます。先ほど、町内会の方が話されていた花植えとか、子どもたちの心を育てていくまちもすごく大事なことで皆様の話を聞きながら改めて感じました。

○ 児童会館の取り組みですが、小学校の中にあるミニ児童会館も含めて、厚別区内には16館あります。建物は8つ、小学校内のミニ児童会館も含めて全部で16館あって、それぞれの個性の中で定期的あるいは毎月、危機管理として子どもたちと避難訓練、消火訓練をやっています。

私のところでは、毎月、テーマを持って、今年はおつひがレスキューをやっておりますが、先日は、夏直前ですから、熱中症の話をしました。そういう形で取り組んでいるのが児童会館の現状です。

それから、万が一、不審者や災害等があったら、業務用LINEで一報が来たり、職場のイントラネットで情報を発信したり、直接電話でという体制を整えています。それ

を受けて、厚別区の情報の受け入れは厚別区の児童会館のスタッフが一齐に見られる掲示板と各館長にダイレクトに送れるメールという形で何重かの構造でやっています。ただ、どうしても、保護者から情報をもらったり、学校、警察、その他からあるため、時間差が出たり、不審者の情報が翌日に入ってくる場合がありますので、児童会館に限らず、情報の察し能力を強化していきたいと感じています。

きのう、市内全部の児童会館の館長職が集まって危機管理の研修がありました。それは、日常的な子どものけがや事故も含めてですが、その中で不審者の話もありました。きのう提示された資料の中で、スクールガードは朝が多いので、むしろ3時、4時の下校時間が手薄になっているということがありました。また、子どもたちが下校する安心感というのもあり、件数が多いのではという事例も報告されて、改めてなるほどと思いました。

それから、直接的な暴力や声かけ以外に、盗撮が増えているというデータがありますが、写真を撮られることを子どもたちが気づいていなくて、犯罪の予備群になっていると非常に痛感するところです。

私は、厚別東の小野幌小学校地区ですから、結構エリアが広いので、学校から児童会館までの経路だけではなく、全く関係ない反対方向にも車を走らせています。交通事故に遭うような事例はないかとか、悪さをしていないかも含めて、たまに見て歩く取り組みをしている館長もいます。自分の学校から児童会館に行く経路以外も子どもたちを見守る必要性を感じたものですから、きのうの研修を含めて改めて思ったところです。

子どもたちは、学校の次の居場所ですから、意外と児童会館を頼りにしてくださっています。例えば、児童会館に来ていない子どもたちでも、すぐ近くの公園でけがしたとか、自転車のチェーンが外れたとかがあれば、児童会館に直してと来るのです。そういう部分で、私たち児童会館が子どもたちのよりどころになっていると日常的に感じています。

きょうの会議、昨日の研修を含めて、困ったことがあったら児童会館に行ってもいいんだという意識づけを町内にも持ってもらえるように取り組んでいかなければと感じました。

- 今、中学校・小学校は施錠されていますね。児童会館は施錠された状態になっていますか。
- 単独の児童会館は施錠していません。まちづくりセンターと同様で、自由に入出りできるのが原則だと思います。

一昨年、児童を殺傷するとか爆弾を仕掛けるという事件がありました。そのときは、施錠して、インターホンを押してくださいという対応をしました。それが、一定程度、ほとぼりが冷めたら、また施錠がなくなりました。現場の職員としては、経費的な問題がありますが、例えばカメラをつけるなどの防犯をしてほしいという話をしています。

- 防犯カメラの設置は、小学校は小学校が単独でお願いすれば早いと聞いていますが、児童会館にも防犯カメラが必要だと思っています。うちの地元の児童会館は女性スタッフばかりなので、何かあったときに心配だねという話が運営委員会のときにありまし



た。小学校は、施設しているし、先生方もいっぱいいますが、児童会館は少ないので、意外に私たちの関心度が抜けている気がするという話をしていました。

- まさにおっしゃるとおりで、言い方は変ですが、まちづくりセンターや図書館と比べて圧倒的に子どもたちの受け入れ率が高い場所です。そういう面では、予算のこともありますが、投資してほしいという思いはあります。

理想は、パトロールしたり、学校から児童会館への経路に何人か職員が立てればいいですが、なかなかそうもいかない状況ですので、そろそろ子どもが帰ってくる時間はとりあえず玄関前に立ってみるなどの工夫が必要だと思います。

- 学校にあるミニ児童会館は、鍵がついていますよね。
- 単独の児童会館は、意外と自由に入ることができます。
- 登録している子どもだけではなく、登録していない子たちが自由に来られるということがあります。
- 小学校であれば、先生方が残っていたりする可能性は高いと思います。
- インターホンもそうですし、子どもが自由にロックを解除することもできますが、逆に脱走されても困ることがあります。

それから、私は人事を考えなければならない立場なので、男性スタッフをつけていますが、担い手がいないものですから、最近はパート職員を採用しています。

- 防犯カメラを町内会でつけるときには、そういったところも触れるべきだと思います。
- 学校に電気錠が入ったのは池田小学校の事件があったからで、ああいう人間がいらないという保証はないですから、簡単に入り込めないというのは考えてもらわなければならないと思います。
- 今の社会がこういう状況になっているので、町内会でも防犯がメインの事業となってきました。その中で、町内会の皆さんや団体が積極的に情報交換していただいているというのは、私ども区としてもとても心強いと感じます。

私は現場に行ったことがありませんが、よく話を聞くのは、学校ごとによって見守り活動に多寡があったり、せっかくおじいちゃんが見守りをやっているのに不審者だと思われる残念なこともあるようなことも聞いております。そういうものを皆さんの力で解決していく方法を検討いただければと思います。私ども区としては、それに対して支援していきたいと思いますので、ぜひ考えていただければと思います。

- 先般、各町内会連合会で街路に花を植えました。厚別警察署の向かいに連町の花壇がありますが、人数が足りなくて困っていると、雨が降っているにもかかわらず、市民部長と一緒に植えてくれたということがあって、すごく感銘していました。
- 連絡体制についてですが、私は青葉地区ということで、小学校主体で青葉地区の子どもを見守る会をやっています。連絡網は、我々のところは電話ですが、保護者はLINEでやっていますので、5月22日にもすぐ連絡がとれて、体制が機能していることがわかりました。

それから、大人の目があれば不審者は来ないということです。私は青パトを今年2月

まで2年間やっていましたが、やはり全然違います。青パトは、不審者ではなく、交通事故防止も兼ねています。本当は後継者をつくっていただきたいのですが、町内会長の話では、いないということです。

それから、不審者と思われるため、例えば、防犯担当者のチョッキを着るとか、スクールガードのチョッキを着て声をかけないと、声かけは難しいです。私の近所でも、私がパトロールをやると、パトロールのおじさんということで、小学校の2年生から6年生はほとんど知っています。それでも、女子児童への声かけは難しいです。声をかけても、女子児童は行ってしまいます。男の子は大きな声で挨拶をします。ですから、声かけは注意しながらやらなければいけないと感じています。

- 資料3の子ども110番の家についてですが、先般、町内会や協力団体に対し、こういうことができますので、ぜひ多分に検討してくださいという案内をお送りしております。これは、見舞金を支給できる傷害保険契約を市が立てかえて払っているもので、そういう利点もありますが、その期限が7月末になっています。もし、皆さんの町内会、団体に検討することがあれば、ぜひ申請していただければと思います。

傷害保険の加入については期限までの申請が必要ですが、登録はいつでもできるので、登録していただければ、家にステッカーを張ることができます。非常に手軽ですし、防犯効果も高く、視覚的な効果ですが、青葉地区には300ぐらい張っていて、不審者情報がほとんど出てこないというのが実情のようです。

実際に、これを入れて不審者に追いかけて駆け込んだという事例はありません。これを張ったら、子どもと一緒に不審者も来るのではないかという思いもよくあるようですが、実際はそんなことは起こってないので、ご心配なさらずに、いわゆる牽制効果ですので、ぜひ検討していただければと思います。

それから、資料4の防犯カメラについてですが、札幌市は3年間で2,000台の補助を予定しております。今、厚別南地区に1台設置させていただいておりますが、特に防犯効果が高いので、警察への相談とか、どこに置いたらいいだろうとか、NTTや土木センターの許可申請などがあるので、もし設置を検討される場合、私どもの後ろに事務局がありますので、ぜひご相談していただければと思います。

- 設置した後の維持管理はどうなるのですか。
- 年間4~5千円です。
- 大谷地のわらび階段に設置している防犯カメラは、維持管理費分を捻出するために、自動販売機を利用してくださいということにしています。販売量によっては足りないかもしれないし、もしかすると大きく出るかもしれませんが、大きく出た分は溜めておいて、次のカメラに使うということもできていると思っていますので、自動販売機の売り上げの一部を維持管理費に充ててもらえればと思います。我々は、そこで儲けようと思っていませんので、ご安心いただければと思います。

(文責：厚別区市民部総務企画課地域安全担当係)